

14時30分解禁

令和2年4月 全国百貨店売上高概況

令和2年5月22日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 208億円余
2. 前年同月比	-72.8% (店舗数調整後/7か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	73社 203店 (令和2年3月対比-1社2店)
4. 総店舗面積	5,187,424㎡ (前年同月比:-4.0%)
5. 総従業員数	61,801人 (前年同月比:-7.5%)
6. 3か月移動平均値	9-11月 -1.1%、10-12月 -8.8%、11-1月 -4.7%、 (店舗数調整後) 12-2月 -6.3%、1-3月 -16.8%、2-4月 -39.7%

[参考] 平成31年4月の売上高増減率は-1.1% (店舗数調整後)

【特 徴】

4月の売上高は72.8%減(7か月連続)と、前月(33.4%減)よりさらに39.4ポイントダウンし、統計開始(1965年1月)以来最大の減少率となった。

新型コロナウイルス感染症により、4月7日に7都府県に発出された緊急事態宣言が、16日には全国に拡大したことに伴い、営業自粛がさらに広がる結果となった。外出自粛の気運も一段と強まり、入店客数も8割弱減と大幅にマイナスした。

地区別では、大都市(10都市/76.0%減)のマイナス幅が地方(10都市以外の地区/64.2%減)を11.8ポイント下回っており、その差は前月よりも1.9ポイント拡大した。

海外からの渡航者の入国制限はほぼ全ての国が対象となり、訪日客が激減したことから、インバウンドは購買客数99.5%減(3か月連続)、売上高98.5%減(5億円/3か月連続/シェア0.4%)と大きく落ち込んだ。国内市場は、食料品などとともに一部法人外商やECサイトが動いたものの70.6%減(7か月連続/シェア99.6%)となった。

食料品については、生活必需品の確保の観点から、多くの店舗において営業を継続したことにより、全売上の4割以上のシェアを占める結果となった。野菜や精肉などのデイリーニーズから生鮮食品が堅調だった他、宅配も好調だった。ECサイトについては、構成比は低いものの、2倍以上の伸びを示す店舗も見られるなど急伸した。特に、食料品、化粧品、婦人バッグ、衛生用品などが動いた。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「4月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇大陸からの寒気の影響を受けやすかったため、全国的に気温が低く、特に西日本ではかなり低かった。降水量は北・東日本で多く、日照時間は東日本太平洋側と西日本でかなり多かった。

(2) 営業日数増減 24.7日 (前年同月比 -5.2日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日 (// -1日/国民の休日1日減)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数111店舗)

①増加した: 1店、②変化なし: 1店、③減少した: 109店

(5) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上 (同上/有効回答数82店舗)

①増加した: 2店、②変化なし: 3店、③減少した: 77店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2020年4月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
全 国	120,893,986	100.0	-72.8 (-73.1)
10都市	77,268,061	63.9	-76.0 (-76.0)
札幌	3,571,698	3.0	-69.8
仙台	2,213,561	1.8	-62.1
東京	30,114,090	24.9	-76.1 (-76.1)
横浜	7,196,643	6.0	-73.5
名古屋	7,701,073	6.4	-73.2
京都	4,664,225	3.9	-75.2
大阪	14,365,645	11.9	-78.9
神戸	2,327,066	1.9	-79.8 (-78.6)
広島	2,850,940	2.4	-68.2
福岡	2,263,120	1.9	-85.8
10都市以外の地区	43,625,925	36.1	-64.2 (-65.4)
北海道	514,598	0.4	-46.3
東北	2,780,718	2.3	-47.5 (-55.0)
関東	15,973,470	13.2	-69.3 (-71.1)
中部	3,403,422	2.8	-64.7 (-66.7)
近畿	7,191,999	5.9	-58.7 (-58.4)
中国	4,062,359	3.4	-56.4
四国	2,337,078	1.9	-67.1
九州	7,362,281	6.1	-62.9

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%) ※
総 額	120,893,986	100.0	-72.8 (-73.1)
紳士服・洋品	4,621,109	3.8	-84.5 (-84.7)
婦人服・洋品	11,344,799	9.4	-87.0 (-87.2)
子供服・洋品	5,505,287	4.6	-58.5 (-59.6)
その他衣料品	2,537,780	2.1	-69.5 (-70.1)
衣 料 品	24,008,975	19.9	-82.7 (-83.0)
身のまわり品	10,387,188	8.6	-82.8 (-83.1)
化粧品	9,009,186	7.5	-81.3 (-81.4)
美術・宝飾・貴金属	5,903,990	4.9	-80.0 (-80.2)
その他雑貨	4,898,228	4.1	-68.5 (-69.7)
雑 貨	19,811,404	16.4	-78.7 (-79.0)
家 具	2,460,704	2.0	-46.5 (-47.3)
家 電	817,452	0.7	-16.6 (-16.7)
その他家庭用品	3,929,038	3.2	-68.0 (-68.5)
家 庭 用 品	7,207,194	6.0	-59.6 (-60.3)
生 鮮 食 品	13,872,507	11.5	-31.6 (-32.9)
菓 子	9,810,513	8.1	-66.6 (-66.6)
惣 菜	11,761,889	9.7	-55.5 (-55.8)
その他食料品	14,520,682	12.0	-52.2 (-53.2)
食 料 品	49,965,591	41.3	-53.0 (-53.6)
食 堂 喫 茶	1,152,251	1.0	-89.9 (-90.2)
サ ー ビ ス	1,277,650	1.1	-73.1 (-73.6)
そ の 他	7,083,733	5.9	-28.0 (-25.5)
商 品 券	2,586,264	2.1	-70.7 (-70.8)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | －76.0% (店舗数調整後／7か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －64.2% (店舗数調整後／7か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	－76.0	－55.3	7か月連続マイナス
札幌	－69.8	－1.9	3か月連続マイナス
仙台	－62.1	－0.8	2か月連続マイナス
東京	－76.1	－21.8	7か月連続マイナス
横浜	－73.5	－4.5	7か月連続マイナス
名古屋	－73.2	－4.8	7か月連続マイナス
京都	－75.2	－3.2	7か月連続マイナス
大阪	－78.9	－12.3	7か月連続マイナス
神戸	－79.8	－1.4	7か月連続マイナス
広島	－68.2	－1.4	3か月連続マイナス
福岡	－85.8	－3.1	7か月連続マイナス
10都市以外の地区	－64.2	－17.5	7か月連続マイナス
北海道	－46.3	－0.1	3か月連続マイナス*
東北	－47.5	－0.6	3か月連続マイナス*
関東	－69.3	－8.2	7か月連続マイナス
中部	－64.7	－1.4	7か月連続マイナス
近畿	－58.7	－2.1	7か月連続マイナス
中国	－56.4	－1.2	7か月連続マイナス*
四国	－67.1	－1.1	7か月連続マイナス
九州	－62.9	－2.8	7か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、7か月連続で全品目がマイナスとなった。また、その他の品目も全品目がマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-72.8	—	7か月連続マイナス
紳士服・洋品	-84.5	-5.7	7か月連続マイナス
婦人服・洋品	-87.0	-17.2	7か月連続マイナス
子供服・洋品	-58.5	-1.8	7か月連続マイナス
その他衣料品	-69.5	-1.3	7か月連続マイナス
衣料品	-82.7	-26.0	7か月連続マイナス
身のまわり品	-82.8	-11.4	7か月連続マイナス
化粧品	-81.3	-8.8	3か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-80.0	-5.3	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-68.5	-2.4	7か月連続マイナス*
雑貨	-78.7	-16.6	7か月連続マイナス
家具	-46.5	-0.5	7か月連続マイナス
家電	-16.6	-0.0	3か月連続マイナス
その他家庭用品	-68.0	-1.9	7か月連続マイナス
家庭用品	-59.6	-2.4	7か月連続マイナス
生鮮食品	-31.6	-1.4	18か月連続マイナス*
菓子	-66.6	-4.3	3か月連続マイナス*
惣菜	-55.5	-3.3	7か月連続マイナス*
その他食料品	-52.2	-3.6	7か月連続マイナス*
食料品	-53.0	-12.7	7か月連続マイナス
食堂喫茶	-89.9	-2.3	7か月連続マイナス
サービス	-73.1	-0.8	2か月連続マイナス
その他	-28.0	-0.6	2か月連続マイナス
商品券	-70.7	-1.4	110か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

令和2年4月 東京地区百貨店売上高概況

令和2年5月22日

I. 概況

1. 売上高総額	301億円余
2. 前年同月比	-76.1% (店舗数調整後/7か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-84.5%(58.8%) : 非店頭7.0%(41.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 25店 (令和2年3月対比±0店)
5. 総店舗面積	825,556㎡ (前年同月比:-1.2%)
6. 総従業員数	16,544人 (前年同月比:-4.7%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	9-11月 -1.7%、10-12月 -8.1%、11-1月 -3.5%、 12-2月 -5.6%、1-3月 -17.2%、2-4月 -41.6%

[参考] 平成31年4月の売上高増減率は-0.8%

【特徴】

- (1) 4月の東京地区は、7日に発出された「緊急事態宣言」を受け、都内全店で臨時休業・時間短縮・食品フロアのみ営業などを実施したことで、平均営業日数が15.7日(前年同月比14.3日減)となり、入店客数(84.8%減/7か月連続)、売上高(76.1%減/7か月連続)共に、全国水準より一段と厳しい結果となった。
- (2) 自粛措置で店頭業績が低迷する一方、外出自粛や内食需要の高まりなどを背景に、オンラインショッピングや通信販売、宅配サービス、外商などを含む非店頭売上は7.0%増と伸長した。
- (3) 商品別では、衣料品(87.3%減)、身のまわり品(79.4%減)など、ファッション関連アイテムは休業によって動きがほとんど見られず、化粧品や高額品を含む雑貨(84.6%減)も同様の結果となった。食料品(61.0%減)は、催事の中止を余儀なくされたが、生活必需品である精肉や野菜など生鮮食品(39.4%減)は他の商材に比べ底堅かった。
- (4) 5月中間段階の商況は、「特定警戒都道府県」の指定が続いている影響で、90.8%減(5/18)と依然厳しい状況で推移している。全館休業していた店舗も段階的に営業を再開したことで、月末に向けて徐々に業績回復していくことが期待される。

【要因】

- (1) 営業日数増減 15.7日(前年同月比 -14.3日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見ると傾向値/前年同月比/有効回答数17店舗)
①増加した: 0店、②変化なし: 0店、③減少した: 17店
- (3) 4月歳時記(春物商戦、GW)の売上(同上/有効回答数13店舗)
①増加した: 1店、②変化なし: 1店、③減少した: 11店

東京地区百貨店 売上高速報 2020年4月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	30,114,090	100.0	-76.1 (-76.1)
紳士服・洋品	1,483,909	4.9	-86.0 (-86.0)
婦人服・洋品	1,713,416	5.7	-92.1 (-92.1)
子供服・洋品	1,058,749	3.5	-66.4 (-66.4)
その他衣料品	504,476	1.7	-74.2 (-74.2)
衣 料 品	4,760,550	15.8	-87.3 (-87.3)
身のまわり品	3,885,972	12.9	-79.4 (-79.4)
化粧品	2,070,838	6.9	-86.1 (-86.1)
美術・宝飾・貴金属	1,209,074	4.0	-87.3 (-87.4)
その他雑貨	1,316,251	4.4	-75.6 (-75.6)
雑 貨	4,596,163	15.3	-84.6 (-84.6)
家 具	1,212,405	4.0	-13.7 (-13.7)
家 電	631,820	2.1	-6.7 (-6.7)
その他家庭用品	1,401,924	4.7	-61.3 (-61.3)
家 庭 用 品	3,246,149	10.8	-43.1 (-43.1)
生 鮮 食 品	2,326,433	7.7	-39.4 (-39.4)
菓 子	1,541,604	5.1	-79.3 (-79.4)
惣 菜	2,246,464	7.5	-63.6 (-63.6)
その他食料品	4,058,019	13.5	-52.9 (-52.9)
食 料 品	10,172,520	33.8	-61.0 (-61.0)
食 堂 喫 茶	114,658	0.4	-95.8 (-95.8)
サ ー ビ ス	664,193	2.2	-68.8 (-68.8)
そ の 他	2,673,885	8.9	-12.5 (-20.1)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	386,104 千円	-81.8 (-81.8)
従 業 員 数	16,544 人	-4.7
店 舗 面 積	825,556 m ²	-1.2

営 業 日 数	15.7 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、3か月連続で全品目がマイナスとなった。また、全国同様、その他の品目も全品目がマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-76.1	—	7か月連続マイナス
紳士服・洋品	-86.0	-7.2	7か月連続マイナス
婦人服・洋品	-92.1	-16.0	7か月連続マイナス
子供服・洋品	-66.4	-1.7	7か月連続マイナス
その他衣料品	-74.2	-1.2	7か月連続マイナス
衣料品	-87.3	-26.0	7か月連続マイナス
身のまわり品	-79.4	-11.9	3か月連続マイナス
化粧品	-86.1	-10.2	7か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-87.3	-6.6	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-75.6	-3.2	7か月連続マイナス*
雑貨	-84.6	-20.0	7か月連続マイナス
家具	-13.7	-0.2	2か月連続マイナス
家電	-6.7	-0.0	3か月連続マイナス
その他家庭用品	-61.3	-1.8	7か月連続マイナス
家庭用品	-43.1	-2.0	5か月連続マイナス
生鮮食品	-39.4	-1.2	19か月連続マイナス*
菓子	-79.3	-4.7	3か月連続マイナス*
惣菜	-63.6	-3.1	3か月連続マイナス*
その他食料品	-52.9	-3.6	2か月連続マイナス*
食料品	-61.0	-12.6	3か月連続マイナス
食堂喫茶	-95.8	-2.1	7か月連続マイナス
サービス	-68.8	-1.2	7か月連続マイナス
その他	-12.5	-0.3	2か月連続マイナス
商品券	-81.8	-1.4	19か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>